

illustrator のチェックポイント

トンボと塗り足しについて 1

- トンボとは
- トンボの作成方法
- 塗り足しとは

カラーモードについて 3

- RGB と CMYK
- カラーモードを確認する

レイヤーについて 4

- レイヤーについて

配置画像について 5

- 画像を配置する

文字のアウトライン化について 6

- アウトライン化とは
- 文字をアウトライン化する

線・塗りの設定について 7

- 「ヘアライン」について

オーバープリント(スミノセ)について 8

- オーバープリント(スミノセ)とは
- イラストレーターのオーバープリント機能について

スミベタ・リッチブラックについて 9

- スミベタ・リッチブラックとは
- スミベタの注意点
- 濃度オーバー

保存について 10

- 保存する

illustrator のチェックポイント

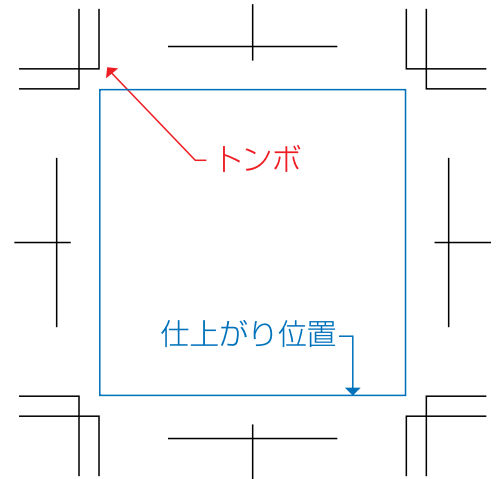
トンボと塗り足しについて

● トンボとは

トンボは印刷の仕上り位置、塗り足し部分を指定する為に必要なものです。

また、印刷過程においても色を合わせるために必ず必要なものになりますので、イラストレーターで作成する場合は、必ずトンボを作成して下さい。

弊社ホームページからダウンロードできる各種テンプレートにはあらかじめトンボは付いています。

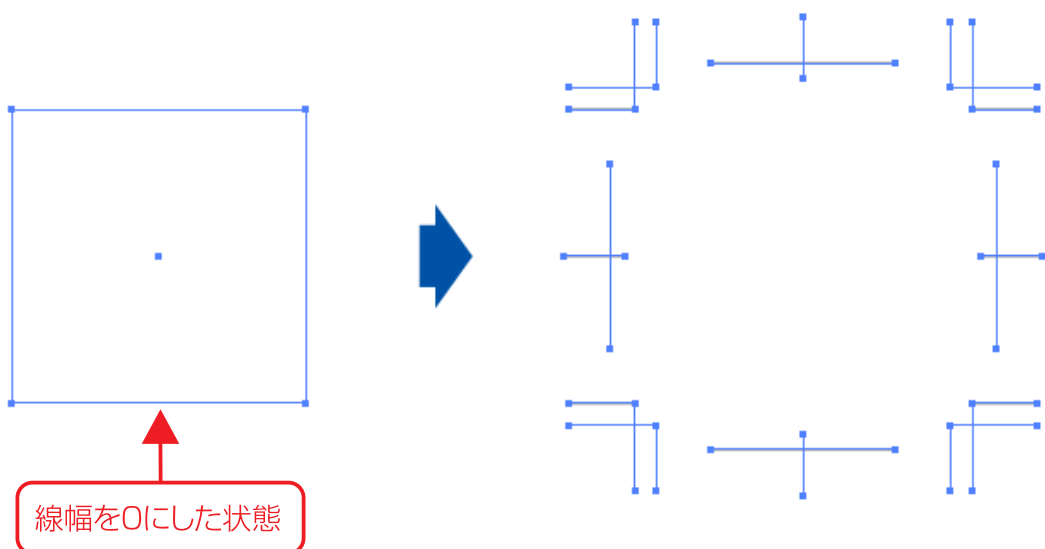
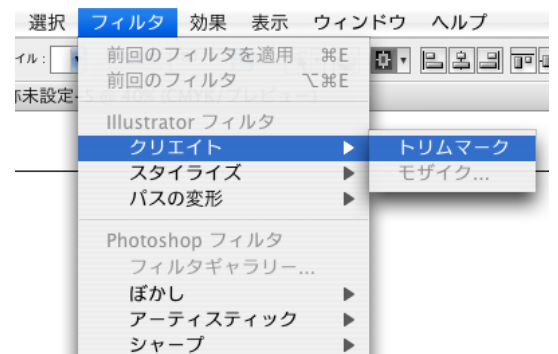


● トンボの作成方法

トンボを付けたいオブジェクトを選択します。

メニューの「フィルタ」→「クリエイト」→「トリムマーク」を選択します。

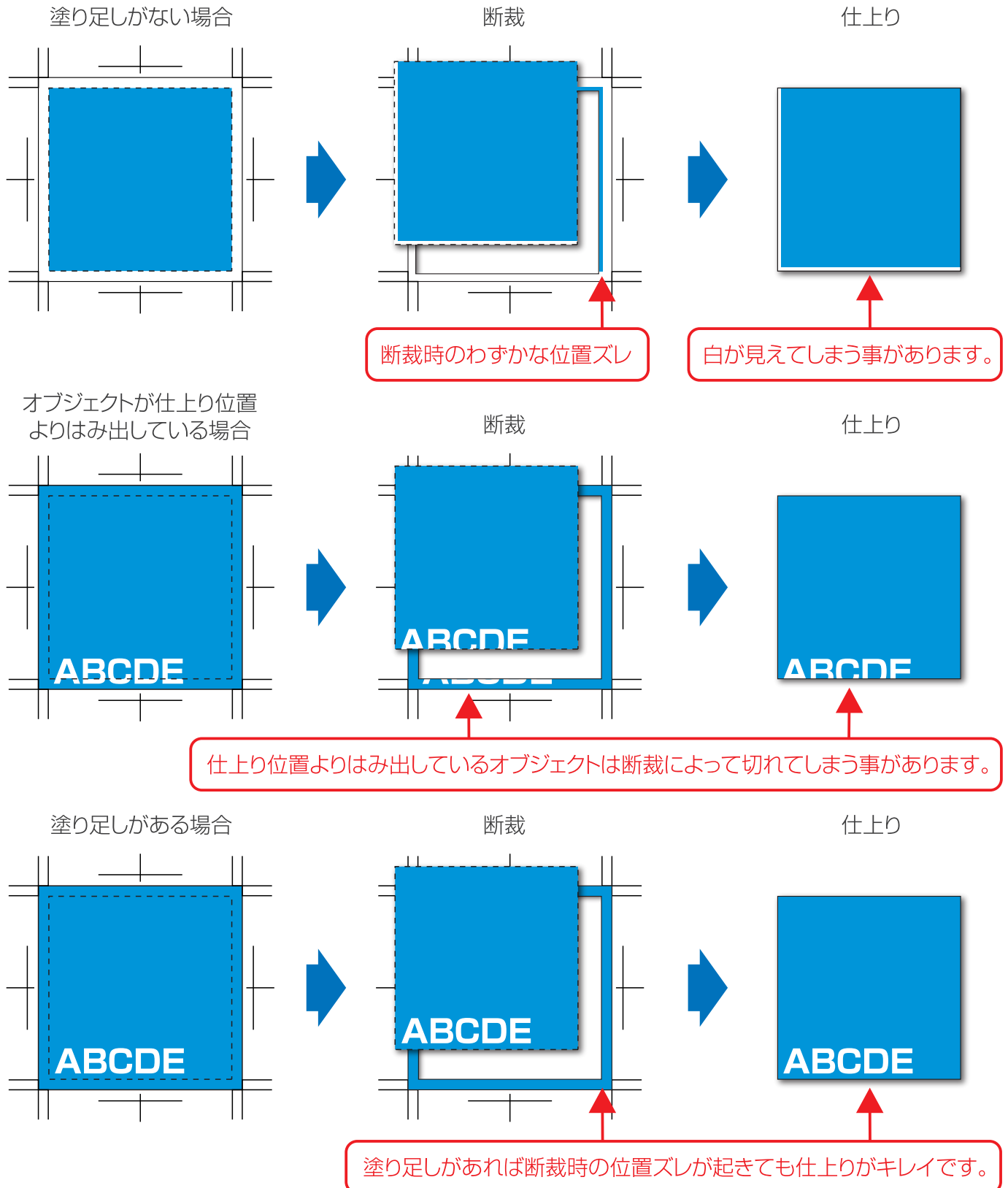
オブジェクトに線幅が入った状態でトンボを作成すると、その線の外側から仕上りトンボができますので仕上り寸法が変わってしまいます。必ず線幅を0にした状態でトンボを付けて下さい。



塗り足しについて

●塗り足しとは

印刷された物をトンボで指定される仕上がり位置で断裁する時、断裁機のわずかな位置ズレにより白(紙の色)が見えてしまうことがあります。それを防ぐ為に、仕上がりサイズの外側に3mmデザインを伸ばします。その部分を「塗り足し」と言います。この「塗り足し」を作る事により白が見えてしまう事がなく、キレイな仕上がりになります。また、仕上がり位置よりはみ出しているオブジェクトは断裁によって切れてしまうことがあります。



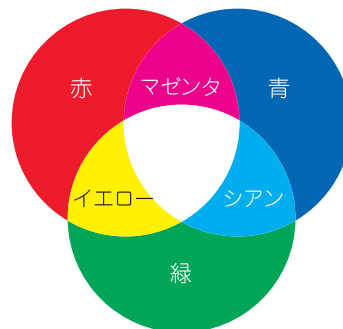
カラーモードについて

● RGB と CMYK

イラストレーターには、「RGBモード」と「CMYKモード」の2つのカラーモードがあり、RGBとCMYKとでは、それぞれ発色方式が異なり色の領域も違います。印刷にはCMYK4色のインキを使用しますので、RGBデータの場合はCMYKデータに変換しなければなりません。しかし、CMYKはRGBに比べ色の領域が狭いため、RGBからCMYKに変換すると、CMYKで再現できない色の領域が近い色に置き換えられてしまいます。よって全体の色目が大きく変わってしまい、特に蛍光色のような色はくすんだ色になります。

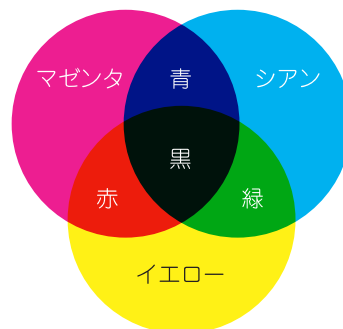
「加法混色」…

RGBはRed(赤)・Green(緑)・Blue(青)による発色方式です。パソコンのモニターやデジカメの色表現に用いられ、赤(R)・緑(G)・青(B)の3色が掛け合わさることで白に近づきます。



「減法混色」…

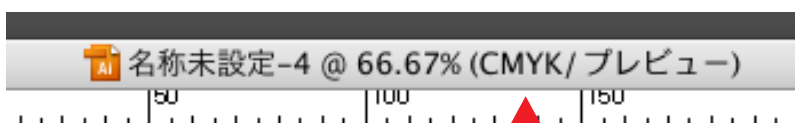
CMYKはCyan(シアン)・Magenta(マゼンタ)・Yellow(イエロー)による発色方式です。プリンターなどの色表現に用いられ、シアン(C)・マゼンダ(M)・イエロー(Y)の3色を掛け合わせることで黒に近づきます。プロセスカラー印刷では、Cyan(シアン)・Magenta(マゼンタ)・Yellow(イエロー)・Black(ブラック)の4色でフルカラーを表現しています。



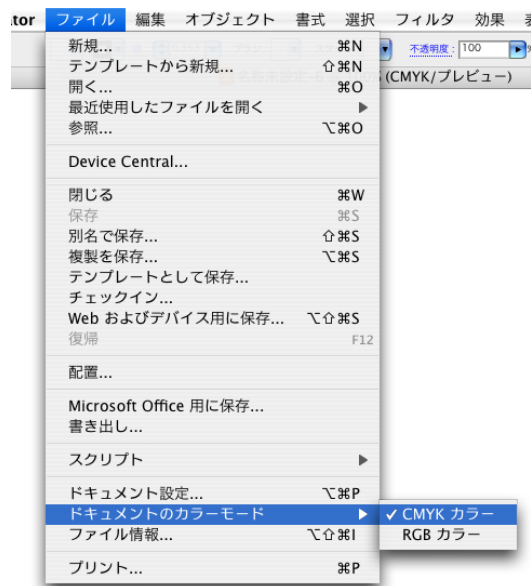
RGBで作成したデータをCMYKで完全に再現することはできませんので、印刷データはあらかじめ配置画像も含め必ずCMYKモードで作成して下さい。

● カラーモードを確認する

メニューの「ファイル」→「ドキュメントのカラーモード」で「CMYKカラー」にチェックが入っているか確認して下さい。「RGBモード」になっている場合はここで「CMYKモード」に変換して下さい。



現在使用しているカラーモードが表示されています。ここでも確認する事ができます。



レイヤーについて

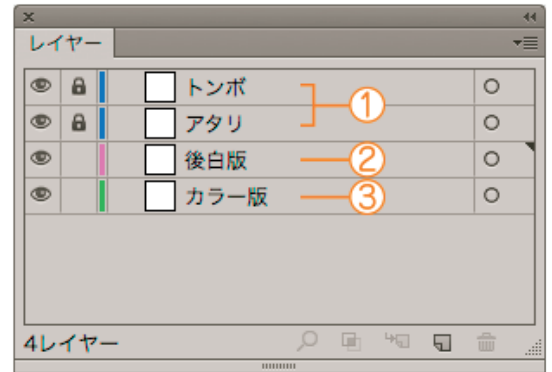
① トンボ・アタリレイヤー

印刷に必要なトンボと、仕上がりの抜きの目安になるアタリのレイヤーです。

このレイヤーは一切の変更を禁止しています。

ロックを解除しないでください。

(誤作業防止のため、初期状態ではロックがかけてあります。)



② 後白版レイヤー

カラー版のデザインを透けない仕上がりにしたい場合、ここにKで白版データを作成してください。

グラデーションやKの%を下げることで、半透明のデザインも可能です。

また、白で表現したいデザインもこのレイヤーにKで作成してください。

※カラー版に白でデータを作成されていても、後白版レイヤーに白版データが作成されていない場合、仕上がりは「透明」になります。

※白版不要の場合は、このレイヤーを削除し白版不要とご入稿時備考欄に記載をお願いします。

③ カラー版レイヤー

絵柄のデザインはこのレイヤーに行ってください。このレイヤー内のものはすべて印刷されます。

アタリやメモ書き、透明擬似のグレー等を入れないでください。

配置画像について

解像度は原寸サイズで300～350dpiで作成したものを配置して下さい。72dpiなどの低解像度の画像は、ガタガタとした粗い仕上がりになりますので印刷には適していません。解像度はフォトショップで確認できます。

Web用の画像は72dpiです。
これはモニタ表示に最適な解像度ですので、インターネット上のキレイな画像を使用しても印刷時には粗くなります。



72dpi
Web用解像度

350dpi
印刷用解像度

※写真は解像度を比較する為のイメージです。

● 画像を配置する

イラストレータによる画像の配置方法は、「**リンク配置**」と「**埋め込み配置**」の2通りがあります。

「リンク配置」…

元ファイルとなる画像ファイルを参照する事によりイラストレーターファイルの容量は小さくなります。しかし、画像ファイル名を変更したり、画像ファイルを別のフォルダに移動するとリンク切れが起き、イラストレーター上で画像が表示されなくなります。

プリンター出力や印刷時も表示されませんので注意して下さい。

「埋め込み配置」…

イラストレーターファイルの容量が増えますが、イラストレーターファイルと画像ファイルが一体化するのでリンク切れの心配はありません。

メニューの「ファイル」→「配置」から、配置したい画像を選択して下さい。

リンクして配置する場合は、「リンク」にチェックを入れて下さい。画像を埋め込んで配置する場合は、「リンク」のチェックを外して下さい。



「埋め込み配置」する場合はチェックを外して下さい。



文字のアウトライン化について

●アウトライン化とは

アウトライン作成しないと別のパソコンで開いた時に初期設定されているフォントや、近いタイプのフォントに置き換わってしまいます。

そこで、イラストレータの「アウトライン作成」という機能を使って、テキストデータを図形化(パス化)します。そうすることで別のパソコンで開いてもそのまの形で表示することができます。

アウトライン作成したデータの上書き保存後は、文字の編集ができませんので、アウトライン作成前のデータも別名保存しておきましょう。

アウトライン化されていない文字
アウトライン



違うフォントに置き換わります
アウトライン

アウトライン化されていない文字
アウトライン



アウトライン化された文字
アウトライン

●文字をアウトライン化する

レイヤーのロックを全て外します。

メニューの「オブジェクト」→「すべてをロック解除」を選択します。

メニューの「選択」→「すべてを選択」を選択します。

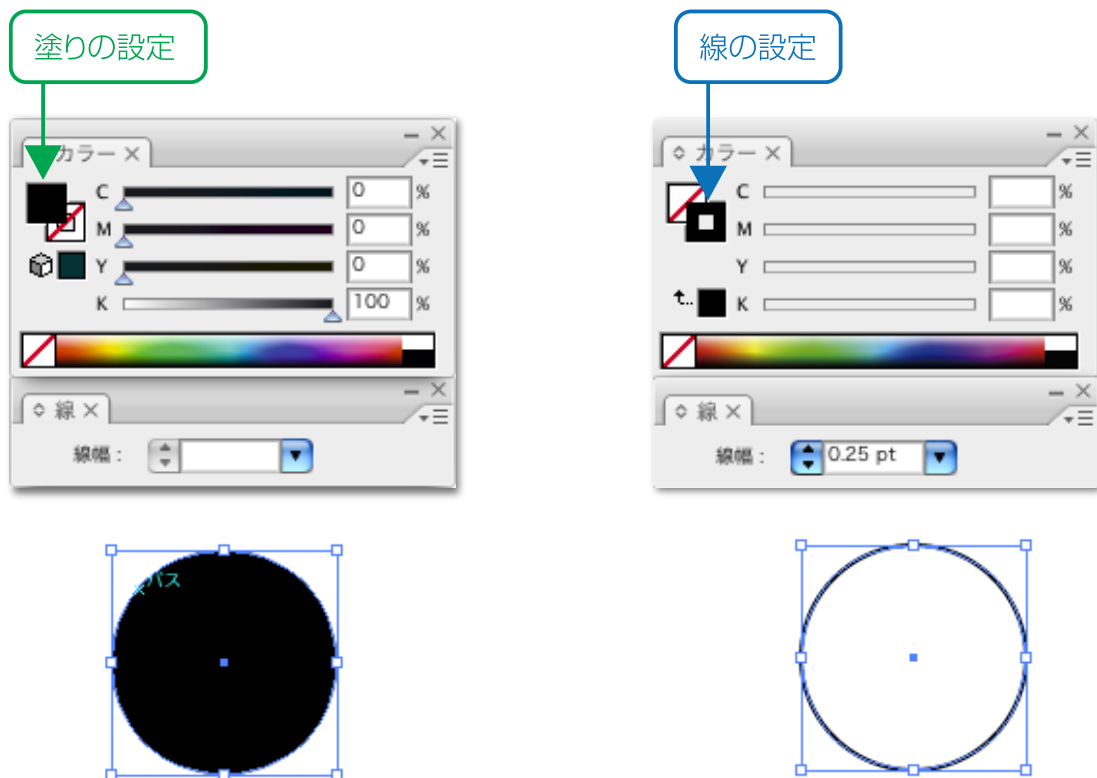
メニューの「書式」→「アウトラインを作成」を選択します。

アウトライン化された文字はパス化され作業完了です。



線・塗りの設定について

オブジェクトに色を付ける指定は「塗りの設定」と「線の設定」の2通りあります。

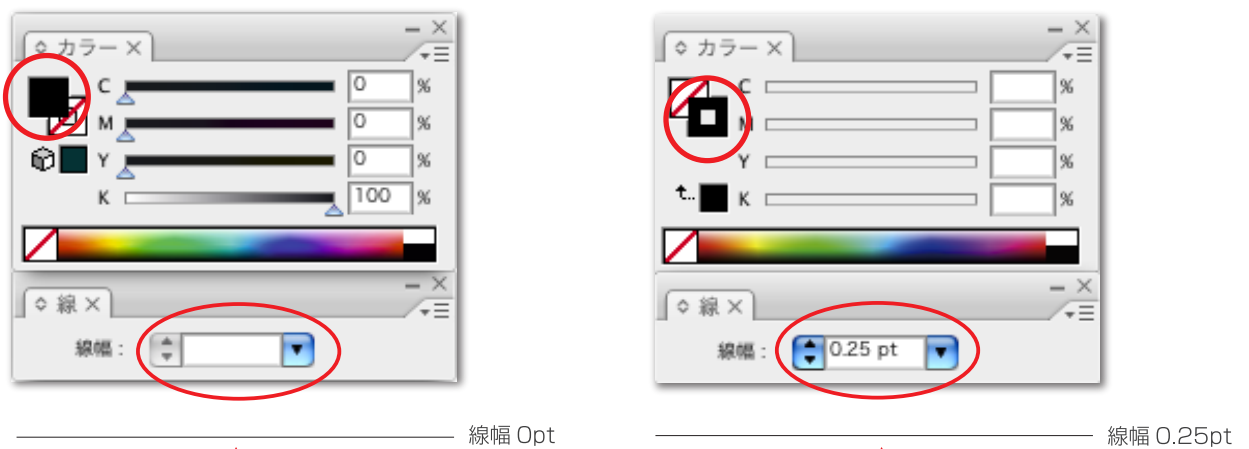


●「ヘアライン」について

「ヘアライン」と呼ばれる印刷できない線があります。

パスで作成された線の色を「塗りの設定」で指定すると、画面上やプリンタでは表現されますが、実際には線の太さを設定していないので、印刷すると非常に細い線になり見えなくなる事もあります。

パスで線を描く場合は必ず「線の設定」で色を指定して下さい。



線幅を指定していないので印刷されません。

線幅が指定されているので印刷されます。

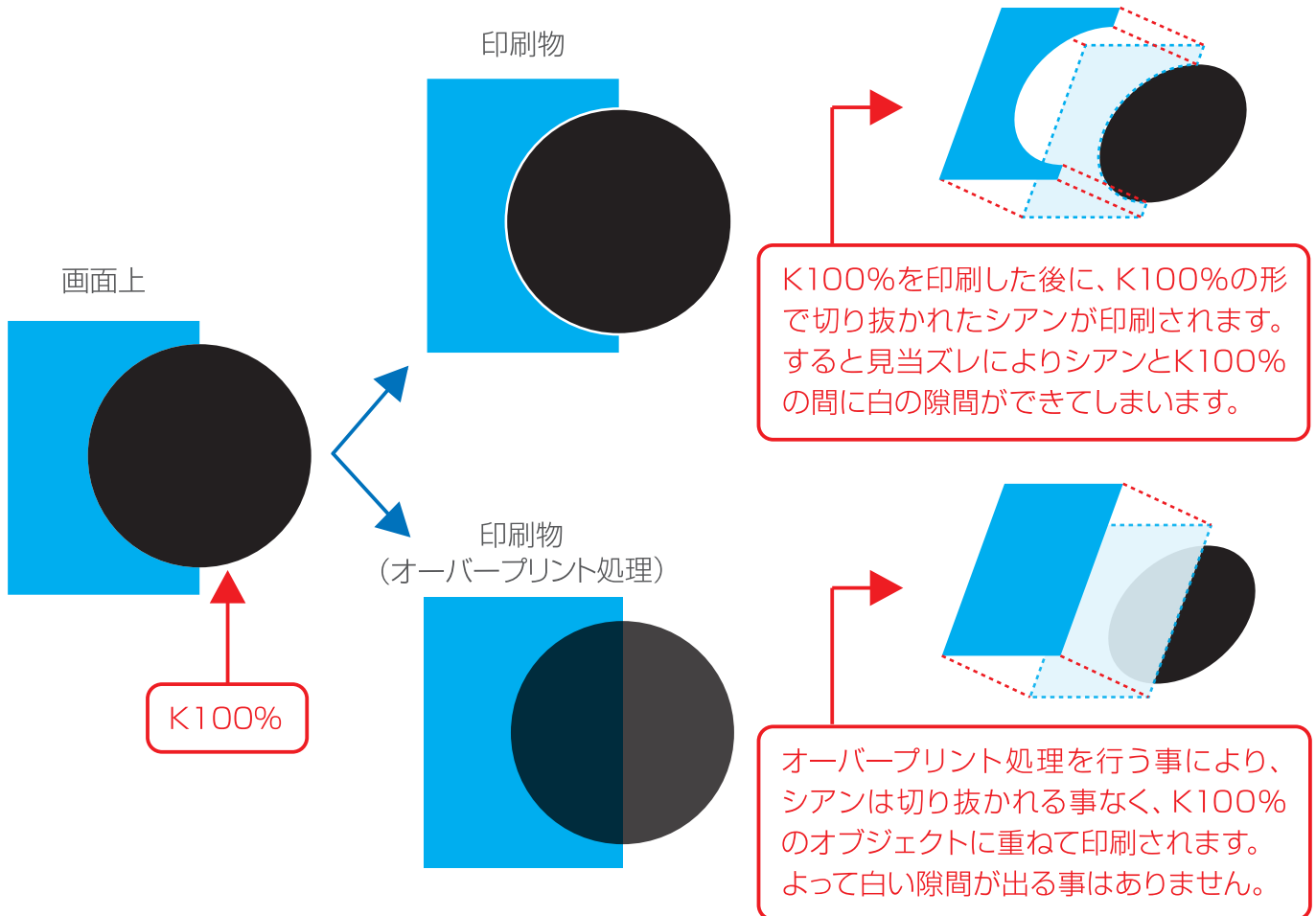
オーバープリント(スミノセ)について

●オーバープリント(スミノセ)とは

印刷は「K(ブラック)」→「C(シアン)」→「M(マゼンダ)」→「Y(イエロー)」の順でインキを重ねていきますが、用紙のわずかな伸縮による見当ズレで白い隙間(紙の地色)ができてしまいます。

これを防ぐ為にK100%のオブジェクトに対して「オーバープリント(スミノセ)」という製版処理を行います。これにより、白い隙間が出る事なくキレイな仕上がりになります。

弊社の製版システムでは100%のオブジェクトに対して自動でオーバープリント処理を行います。



●イラストレーターのオーバープリント機能について

上記とは別に、イラストレーターではこのノセの処理が個別に設定できる「オーバープリント」機能がありますが、弊社の製版システムではチェックを入れても機能が破棄される設定になっておりますのでチェックは入れないで下さい。

「ウィンドウ」→「属性」でチェックが入っていないか確認して下さい。



チェックは全て外して下さい。

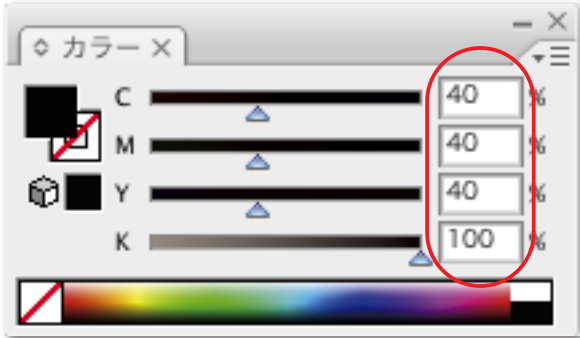
スミベタ・リッチブラックについて

● スミベタ・リッチブラックとは

K100%の黒を「スミベタ」と言います。

また、スミベタにCMYをそれぞれ40%足した黒を「リッチブラック」と言います。

リッチブラックは、スミベタに比べて艶やかで濃密な黒色になります。



スミベタ(K100%)



リッチブラック



● スミベタの注意点

写真などの絵柄の上にスミベタ(K100%)のオブジェクトを配置した場合、弊社の製版システムではスミベタ(K100%)のオブジェクトに対して自動でオーバープリント処理を行いますので、画面上ではわかりませんが、印刷すると下の絵柄が透けて見えてしまいます。

スミベタ(K100%)



リッチブラック

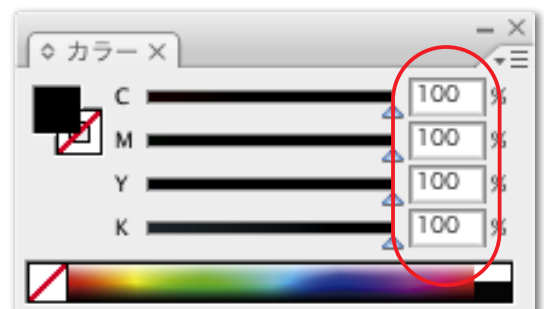


オーバープリント処理によるこの現象を防ぐには、スミベタ(K100%)ではなく、リッチブラックにするか、スミベタ(K100%)に別の色(シアン1%など)を加えて下さい。

● 濃度オーバー

使用したCMYKの合計が350%以内になるように設定してください。

それ以上になりますと、印刷後のインキが乾燥できずに汚れの原因になります。



保存について

● 保存する

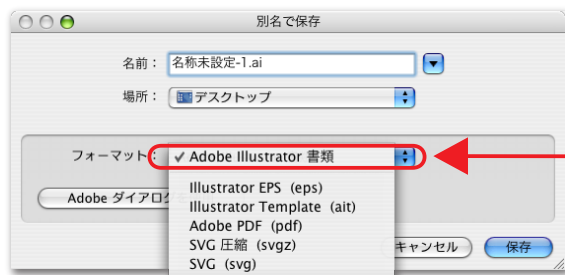
保存には「上書き保存」と「別名保存」があります。

「別名保存」を選択しますと、保存形式が選択できますので、

必ず「Adobe Illustrator」形式で保存して下さい。

拡張子は「○○○○○○○.ai」になります。

「上書き保存」されると保存前の状態に戻れませんので注意して下さい。



これを選んで下さい。